



確かな学力の向上をめざして【12月】

■ 長欠・不登校の現状と支援について

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」が、文部科学省より報告されました。小・中学校では年々在籍児童生徒数が減少しているにもかかわらず、不登校児童生徒数は10年連続で増加し、過去最高の数値となりました。前年度よりも5万4千人程度の増加が見られ、喫緊の課題となっています。

令和4年度、鳥取県の不登校児童生徒数は小学校で492人（昨年度より92人増加）、中学校で877人（昨年度より224人増加）でした。

中部地区においても、不登校児童生徒数は毎年増加し、今年度も昨年度を上回る増加傾向となっています。引き続き、不登校になったきっかけや継続理由についての的確な把握とその要因について分析し、効果的な支援に繋げていくことが求められています。

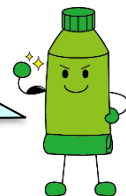
【昨年度（令和4年度）の欠席の状況】（表中の数字は人数、%は出現率）

小 学 校	長欠(30日以上)	うち不登校	中 学 校	長欠(30日以上)	うち不登校
中部地区	151 (2.95%)	104 (2.03%)	中部地区	226 (8.72%)	191 (7.37%)
鳥取県	860 (3.04%)	492 (1.74%)	鳥取県	1202 (8.41%)	877 (6.06%)



不登校が増えてきている要因としては、「不登校への理解が広がり、休むことの必要性が保護者に浸透してきたこと」、「コロナ禍で生活環境が変わり、生活リズムが乱れやすい状況であったこと」、「制限のある中で友達関係を築く必要があり、登校意欲が湧きにくくなったこと」などが考えられます。

欠席への心理的なハードルが下がっている状況の中で、今後ますます一人一人の思いに寄り添いつつ、アセスメントに基づいた個に応じた具体的な支援が求められています！



不登校支援のポイント

◆発達支持的生徒指導を大切にしましょう

新規不登校児童生徒を出さないためには、全ての児童生徒の全人的な成長を促していくための発達支持的生徒指導と未然防止をねらいとして意図的・組織的・系統的な教育プログラムを実施する課題未然防止教育に取り組むことが大切です。学校が安全・安心な居場所となる「魅力ある学校づくり」と「教育相談活動の充実」に努めましょう。

◆「BPSモデル」によるアセスメントに努めましょう

生徒に係る情報を「B：生物学的要因」（発達特性、病気等）と「P：心理学的要因」（認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等）と「S：社会的要因」（家庭や学校の環境や人間関係等）に着目して多面的なアセスメントをスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと協働して実施することで、児童生徒理解をすすめましょう。

◆不登校児童生徒がいつでも学ぶことのできる学びの機会を保障する支援に努めましょう

Point

不登校児童生徒への支援を考える上で必要なことは、**不登校の背景にある要因を多面的かつ的確に把握し、早期に適切な支援につなげるアセスメントの視点**です。

■ ふるさとキャリア教育のより一層の充実に向けて

鳥取県では、地域の魅力を学ぶ「ふるさと教育」と、自らの生き方や将来について考える「キャリア教育」を合わせて「ふるさとキャリア教育」と呼んでいます。この「ふるさとキャリア教育」の推進・充実が、「鳥取県教育振興基本計画」に位置付けられ、県の総合政策の柱の一つとなっています。

鳥取県では、この「ふるさとキャリア教育」を学校や地域で取り組むことで、鳥取に誇りと愛着をもち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させていこうという意欲と気概をもった子どもたちを育むことを目指しています。

鳥取県における「ふるさとキャリア教育」の推進

鳥取県における「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

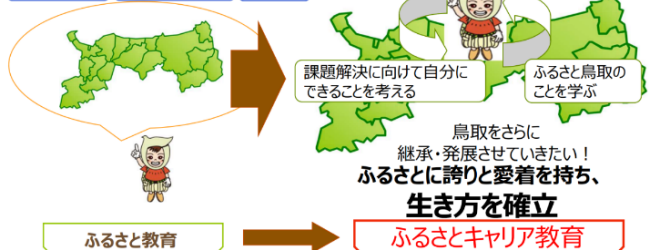
1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材

ふるさと鳥取のことを学ぶ

人(心ゆめ・絆) 物(自然・文化・歴史) 仕事(産)

ふるさと鳥取で学ぶ

イメージ



系統的な取組の推進



令和3年3月リーフレット「学校と地域でつくる子どもたちの未来」鳥取県教育委員会より

子どもたちの成長は小学校だけでなく、幼保・小・中・高とつながっていきます。ふるさとキャリア教育も発達段階に合わせて系統的に取り組むことが大切です。

また、ふるさとキャリア教育は教育活動全体で行います。「特別の教科 道徳」「特別活動」「生活科」「社会科」「総合的な学習の時間」などをどう位置付けていくのかを考えるとともに、各教科のねらいや評価を明確にし、単なる行事で終わらせることがないようにしましょう。

ふるさとキャリア教育
モデル事業の取組(一部)
～北栄町の取組より～

地域の多目的広場に
植樹をしよう
(北条小6年生・総合)
★園児・地域の人と植樹

大栄の自慢を見つけよう
スイカ選果場・園芸試験場訪問
(大栄小3年生・総合)

モデル事業の取組
を知ることができます!

北栄町防災の取組
(北条中1年生・総合)

大栄小・中学校「白熱大討論会」
児童生徒・地域代表 教員代表で討論

YouTu 部(大栄中)

特色ある学校づくりの一環として
地域の魅力を生徒が動画配信



Point

1 キャリア・パスポートの活用を!

各学校で実施されるふるさとや生き方に関する学習を行った後、記録を残していきます。様々な発達段階でキャリア・パスポートを開くたび、鳥取のことを思い、自己の成長に気づいたり支えてくれている身近な人たちの思いを感じたりすることができます。

2 コミュニティ・スクールの仕組の活用を!

学校や地域・家庭が連携、協働し、目標やビジョンを共有しながら進めていくことが、ふるさとへの愛着や誇りを高める教育の充実につながります。

ふるさとキャリア教育×キャリア・パスポート

